



Excel 内部統制

Super棚卸【個人情報】

取扱説明書

2012.7.13

Ver 1.010

目次

1. はじめに

1.1 Excelブックの運用

1.2 本システムが前提とする環境

1.3 ユーザライセンス

1.4 仕様の変更

2. アドインインストール

2.1 ダウンロードコンテンツ

2.2 インストール環境

2.3 Excelのマクロのセキュリティレベルの設定

2.4 アドインのインストール手順

2.5 アンインストール

3.環境設定とパスワード制御

3.1 環境設定

3.2 分析テーブルの構成

3.3 選択の操作

3.4 分析対象ブックのリスト作成とパスワードの解除

3.4.1 分析対象ブックのリスト作成

3.4.2 Readパスワードの解除

3.4.3 シート・ブック・マクロのパスワードの解除

3.4.4 パスワードの確認と一括設定

4 個人情報分析

4.1 分析可能な個人情報

4.2 個人情報の分析

4.2.1 分析条件に関して

4.2.2 個人情報分析操作

4.3 ヒートマップ分析

4.3.1 ヒートマップ分析条件の定義

4.3.2 ヒートマップ分析条件の実行

4.3.3 ヒートマップ分析結果に基づく「選択」

4.3.4 元ブックへのリードパスワードの設定

4.3.5 元ブックのブックの削除

4.3.7 フリーズ（作業フォルダの削除）

5 暗号化処理

5.1 暗号化・複合化機能

5.2 暗号化・復号化のサイクル

1 はじめに

1.1 Excelブックの運用

(1) Excelの利用形態

Excelは機能が豊富で、非常に多くの用途に利用できます。以下は代表的な用途です。

- ワードプロセッサとして文書作成
- データの整理:住所録のような簡単ものから、本格的なDB(データベース)に匹敵するものまで、広範囲なものまであります。特に個人情報などを含むものは、情報の漏洩防止の管理を強化する必要があります。
- 表計算機能を利用した集計処理:高度なExcel関数を利用することにより、非常に高度な複雑な計算が可能となります。計算式が正しいか否か判定することは簡単には判断できません。
- データマイニング:収集されたデータに対して統計分析を行うことにより、傾向を分析することができます
- グラフの作成:集計データを下に、グラフ化することでBI(ビジネスインテリジェンス)ツールとして利用できます。もちろん、集計データに誤りがないことが前提となります。
- プログラミング:表計算で利用するExcel関数では複雑なロジックを組むことはできません。高度な処理を行うためには手続き言語(プログラミング)が不可欠ですが、Excelには当初からVBA(Visual Basic For Application)という言葉が提供されており、一般のITシステムと同等なシステムを構築することができます。VBAはマクロとも呼ばれています。VBAはExcel版数(2000, XP, 2003, 2007, 2010)においてほぼ継承されており、一度作成されたVBAプログラムは長期にわたって利用可能になります。専門的な技術が必要で、一般のITシステムと同等な品質管理がもとめられます。

(2) 内部統制における個人情報とExcel

●現在、企業に求められる内部統制は

- 1.「個人情報保護法」(2005年4月施行)
- 2.「会社法」(2006年5月施行)、
- 3.「金融商品取引法」(通称J-SOX法、2008年4月以降の決算で適用)

の3つの法令で規定されています。このうち、J-SOX法はすべての上場企業(約3800社)に対し、財務報告書の信頼性の報告を義務付けるもので、内部統制=『財務報告書の信頼性』という誤解があります。

内部統制の本質はリスクマネジメントであり、トップダウンで自社の内部統制(リスクマネジメント体制)を確立していく必要があります。

[ある調査によると](#)、企業がコンプライアンス推進活動において重視する法令は、「個人情報保護法」につき「金融商品取引法」となっています。

●個人情報の漏洩事件:昨今、顧客情報を多く保有する企業において膨大な個人情報の漏洩の事件が頻発しています。

個人情報を記載した顧客名簿や経営データなど、Excelで重要な書類を作成することはよくあることです。万一、こうしたファイルが外部に漏れたら、業務に支障が生じるだけでなく、損害賠償請求、信用や金銭面で

大きなダメージを受けてしまいます。しかも、一旦漏洩すると、永久に漏洩データを回収することは不可能になります。個人情報を厳重なセキュリティ管理下でDataBaseに保存するのとは違い、特にExcelの場合はEUC(End User Computing)環境ということで、現場のPC上に保存されているという面んで、漏洩のリスクは高いといえます。更に本棚卸【個人情報】ツールも同様ですが、ネット上には、パスワードを忘れたときのための解析ソフトが出回っています。

●「個人情報」とは、生存する個人に関する情報で、特定の個人を識別することが可能な情報のことを言います

- ・ 氏名、生年月日、電話番号、口座番号やクレジットカード番号、会社における職位や所属
- ・ 本人が判別できる映像などの情報
- ・ 特定の個人を識別できるメールアドレスなどの情報
- ・ 機微な情報(センシティブ情報):取得には特に注意が必要です

● 検索可能な個人情報:個人情報保護法では[個人情報取扱事業者](#)が保有する検索可能な個人情報の内部統制を要求しています。Excelに保存された個人情報はまさに検索可能な状態にあります。

●個人情報が漏えいする原因は？

情報漏洩の原因としては、次のようなものがあげられます。また、当事者に悪意がなくても漏えいにつながるケースもあります。

- ・ 盗まれたノートパソコンや記憶媒体から情報が漏えいしてしまうケース
- ・ 会社のパソコンやデータの不正持ち出しによって情報が漏えいするケース
- ・ Webサイトの不具合で個人情報が外部から閲覧できるケース
- ・ メールの誤送信によるケース
- ・ リースで利用したパソコンの返却時にデータを消し忘れてしまうケース
- ・ パソコンが知らないうちにウイルスに感染し、データを盗まれたり、ばらまかれたりするケース

(3) Excelブックの棚卸と本ツールの関係

●具体的な対策

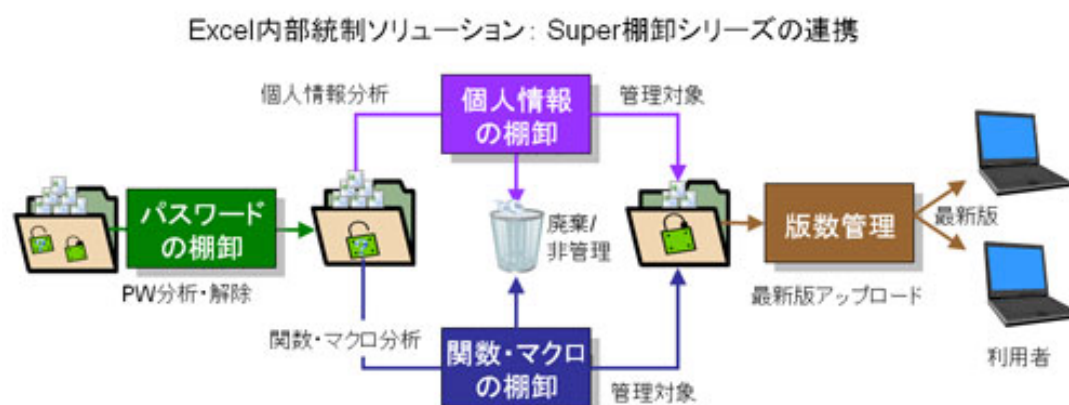
本棚卸【個人情報】ツールのテーマは、以下のものです。

業務上、PCに一時的にせよ、個人情報を保存しなくてはならない場合において、個人情報の内部統制を支援するものです。具体的には、

- ・廃棄・削除の徹底:一定期間が過ぎた個人情報ファイルは削除する
- ・保存状態においては適切なパスワード保護の設定、特に機微情報などを含む場合はデータの暗号化を設定
- ・保存ファイルに関する、リスク度の定期的な棚卸により、実態の把握(一覧、各個人情報のスコア、リスク度)、適切な処置を施す(廃棄・削除、パスワードの設定、暗号化の実施)

(4) 棚卸シリーズのソリューション

本ツールは、下図のように連携するソリューションとしても、単独の分析ツールとしても利用ができます。



1.2 本システムが前提とする環境

本棚卸【個人情報】(以下、本ツール)は、以下を条件としています

- (1).適切なクライアントの利用環境であること(OS、Microsoft Officeの版数、CPUの性能)
 - (2).適切なユーザライセンスを所有していること
 - (3).利用環境が適切に整備・定義されていること
 - (4)利用者側において、パスワードの強制解除に関する運用規定があり、当該規定の下で運用されていること
- ※

1.3 ユーザライセンス

(1).正規版ライセンス

ユーザライセンスは、利用者PCハードウェア数のライセンスが必要となります。

アドインの登録時に、ライセンスがチェックされます。

本ライセンスコードはサポートを受ける場合のユーザ識別子となります。

(2).評価版ライセンス

評価版のライセンスコードは、“1”を入力することにより、一定の期間(30日)使用することが可能です。

一部※、機能的な制約があります。

※:分析可能なファイル数が一つに限定されます。

ただし、評価版のライセンスではサポートを受けることができません。

1.4 仕様の変更

本ツールは改善もしくは品質上の問題から、断りなく仕様を変更する場合があります。

お断り:

1. 本ツールにおいては暗号化処理の[CryptMin.dll](http://homepage2.nifty.com/nonnon/Download/CryptMin/index.html)を使用しております。本DllはNonSoftの著作物であり、再配布の許諾を得ております。

<http://homepage2.nifty.com/nonnon/Download/CryptMin/index.html>

2. また本ツールにおいては、VBA保護操作のライブラリとして[K窓](http://www2.aqua-r.tepm.jp/~kmado/)のkcommand.dllを使用しております。

<http://www2.aqua-r.tepm.jp/~kmado/>

2. アドインのインストール

2.1 ダウンロードコンテンツ

本ツールは以下のコンテンツから成り立っています

	コンテンツ名	内容
1	インストーラ	利用者環境にインストールを実行します
2	アドイン	ユーザ環境においてヒートマップ作成等のコマンドを実行するアドイン
3	dll 群	上記アドインで利用される dll 群です
4	取扱説明書	本取説および別冊の「クイック評価手引き」資料です
5	VBA モジュール	分析用のブックに組み込まれて使用される VBA モジュール群

2.2 インストール環境

OS種別			起動Excel(アドイン環境)					利用アカウント	
OS名	SP	ビット版	2000	2002	2003	2007	2010	Administrator	ユーザ
			SP4	SP3	SP3	SP2	SP1		
Windows 2000/Pro	SP4	32	●	●	●	× ^{*3}	× ^{*3}	●	● ^{*5}
Windows 2000/Server	SP4	32	●	●	●	× ^{*3}	× ^{*3}	●	● ^{*5}
Windows XP/Pro	SP3	32	●	●	●	× ^{*2}	● ^{*1}	●	● ^{*5}
		64	●	●	●	× ^{*2}	● ^{*1}	●	● ^{*5}
Windows 2003/Server	SP4	32	●	●	●		● ^{*1}	●	● ^{*5}
Windows Vista	SP2	32	●	●	●	× ^{*2}	未評価	●	● ^{*4}
	SP2	64	未評価			× ^{*2}	未評価		
Windows 7	SP1	32	●	●	●	× ^{*2}	未評価	●	● ^{*4}
	SP1	64	●	●	●	× ^{*2}	未評価	●	● ^{*4}
	SP1	XP Mode	●	●	●	× ^{*2}	● ^{*1}	●	● ^{*4}

未: 現在、動作を確認できていません

*1: Excel 97～2003互換モードで使用

*2: Excel VBAの互換が確保できないため

*3: インストールできない

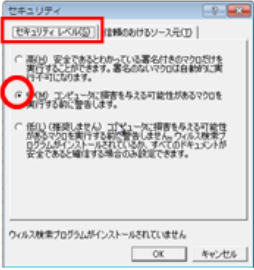
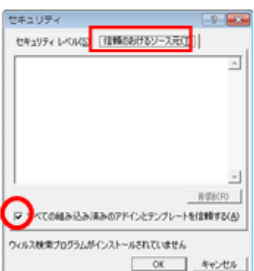
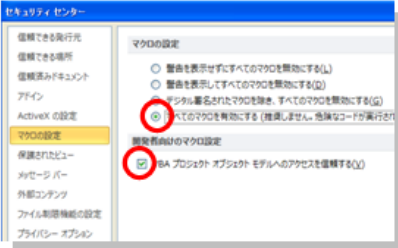
*4: Administratorでインストール後に、ユーザアカウントで再度インストール

*5: ローカル管理権限でインストール後に、ユーザアカウントで再度インストール

注意: 複数のExcel版をインストールされている場合は、デフォルトで起動されるExcelが対象となります

2.3 Excel のマクロのセキュリティレベルの設定

本品は Excel の VBA（マクロ）で動作するため、使用に当たってはマクロのセキュリティレベルの変更が必要です

Excel版数	Excel 2000	Excel 2002,2003	Excel 2010
起動	[ツール]→[マクロ]→[セキュリティ]で設定後に再起動		[Excelオプション]→[セキュリティセンタ]で設定後に再起動
設定内容	 		

2.4 アドインのインストール手順

- ①解凍したフォルダに「個人情報分析インストーラ.xls」を起動してください。以下の設定画面が表示されます。**注意：解凍したモジュールをローカルに保存して下さい。**
- ②使用許諾を確認後に、『棚卸【個人情報】アドインインストール』ボタンを押下
- ③ライセンスキー入力画面
評価用のキーの“1”を入力。インストール後、30日間有効なキーです。
正規ライセンスキー：送られたライセンスキーを一括貼り付けて下さい。
- ④ログ保存フォルダを設置します。デスクトップ等に“Logetc”等のフォルダを作成します。
- ⑤正しくインストールが終了すれば、完了メッセージが出力されますので、インストーラを閉じてください。

個人情報保護 インストーラー、進捗集計

1.031 By Excel工房

棚卸【個人情報】 アドイン・インストール

アドイン・アンインストール

管理者用設定

終了



使用許諾(最初に確認してください)

- C. 本ソフトウェアのソースコードを調べたり、リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、その他の試みを行うこと。
D. お客様が本ソフトウェアの代替セットまたはアップグレード版を受け取った以降に、前のバージョン（またはそのコピー）を使用すること。ソフトウェアのバージョンアップにより、前のバージョン（またはそのコピー）は、すべて破棄するものとします。
E. このライセンス契約が認めていない方法により本ソフトウェアを使用すること。
F. 本ソフトウェアを介して、代金や手数料を徴収したり使用に制限を設けること。

◆保証の限定

Excel工房Yuzuは、本ソフトウェアの引き渡しから60日間にわたって、本ソフトウェアの供給媒体に瑕疵がないことを保証します。
この保証内容に違反する事態が生じた場合、お客様の救済方法として、Excel工房Yuzuは保証期間内に返送を受けた瑕疵のある媒体の代品を提供するか、本ソフトウェアの購入代金の払い戻しをいたします。
Excel工房Yuzuは本ソフトウェアがお客様の要望通りに動作すること、本ソフトウェアの操作に障害が

使用許諾に同意

使用許諾に同意しません

注意：Windows Vista, 7 の場合のインストール：dll の登録はアドミニ資格ではなく [Administrator] のアカウントで最初にインストールして下さい。その後、ユーザアカウントに切り替えて再度インストールして下さい。

設定の仕方は次ページを参照してください

※ なお、

⑥ServerMode においては、管理者用の設定：管理者が存在する場合は、利用者に対して、検索条件などを指定することができます。ただし、現版数では、ServerMode※は未サポートとなっています。

：ServerMode：分析した個人情報を指定したサーバに収集する仕組みです

☒【管理者権限】による限定使用

【サーバモード】による利用

個人情報集計

結果集計/タの指定

結果集計リストのアドレス指定

☐ファイル検索キー指定

Test

☒検索ファイル対象期間の指定

以前

☒ヒートマップスコア閾値の設定(上・下)

20050

☒暗号化モード(DES/3DES)

3DES

☒ブックの保存期間の指定

5作成日

インストーラの設定

キャンセル

- 利用者として、管理者権限を必要とするか否かを指定
- ファイルの検索条件を正規表現で与える。未定義の場合は全ファイルが対象。
- 検索条件の期日指定
- ヒートマップ分析における大中小の境界値の定義
- 暗号化方式：DES/3DES
- ファイルの保存期間の定義

定義された「個人情報分析インストーラ.xls」が、利用者に配布された場合に、初期値として上記に設定された条件値が適用されます。

ドインがインストールされると、“棚卸(PI)”の文字列を含みかつ拡張子“.xls”の Excel ブックが起動されると Excel のメニューバーに棚卸【個人情報】用のコマンドが表示されます。操作は本コマンドメニューから指示します。アドインのメニューバーの表示位置は Excel 版数によって異なります。

Excel版数	Excel 2000, 2002, 2003	Excel 2010
操作	[ツール]コマンドメニューから	[アドイン]タブを表示
	<div><div>ツール(T)データ(D)ウィンド</div><div>保護(P)マクロ(M)アドイン(I)オプション(O)Excel棚卸(個人情報)</div></div>	<div><div>ファイルホーム挿入ページレイアウト数式データ校閲表示開発アドイン</div><div>Excel棚卸(個人情報)</div><div>これが、棚卸(個人情報)用のコマンドメニューです。 “棚卸(PI)”を含まない Excelブックでは表示されません。</div></div>

2.5 アンインストール

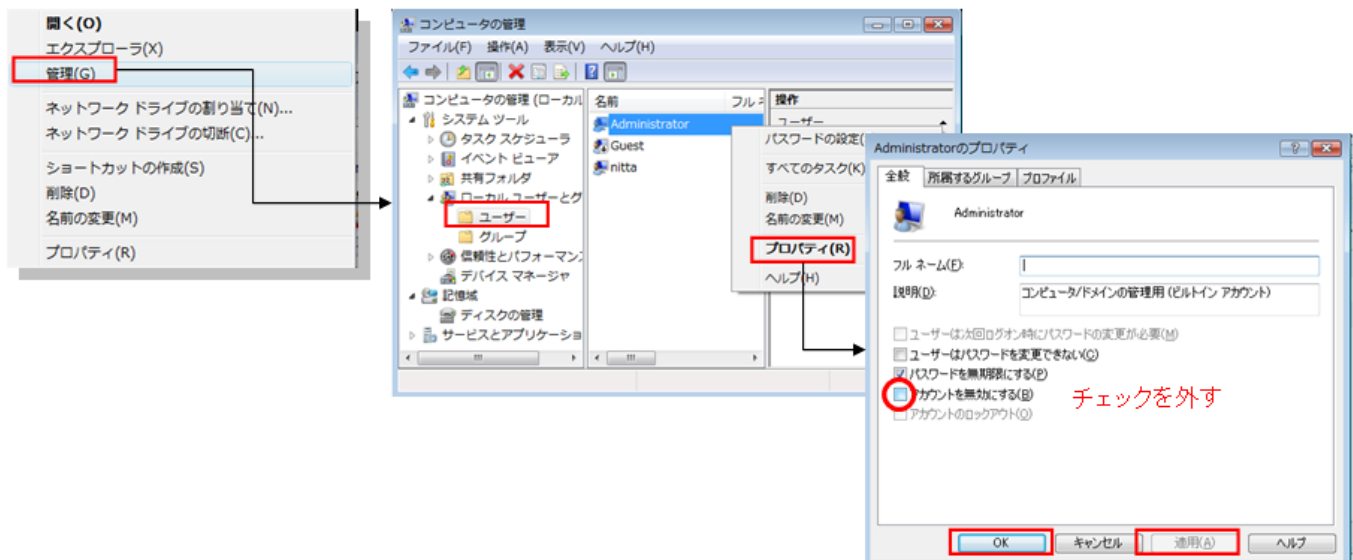
インストール画面にて「アンインストール」を実行して下さい。

● Administrator アカウントの表示方法

デフォルトでは「ようこそ」画面には Administrator アカウントは表示されていないので、一旦管理者権限でログインして、

- ①[コンピュータ]を右クリックして[管理]を選択
- ②[ローカルユーザとグループ]フォルダ下の[ユーザ]を開く
- ③[Administrator]を右クリックで[プロパティ] を選択して開く
- ④[Administrator のプロパティ]にて「☐アカウントを無効にする」のチェックを外し、OK を押下
- ⑤ログオフすると、「ようこそ」画面に「Administrator」アカウントが表示される
- ⑥非表示にするためには、「Administrator」アカウントでログオンした状態で④の手順にてチェックを入れる

[コンピュータ] 右クリック

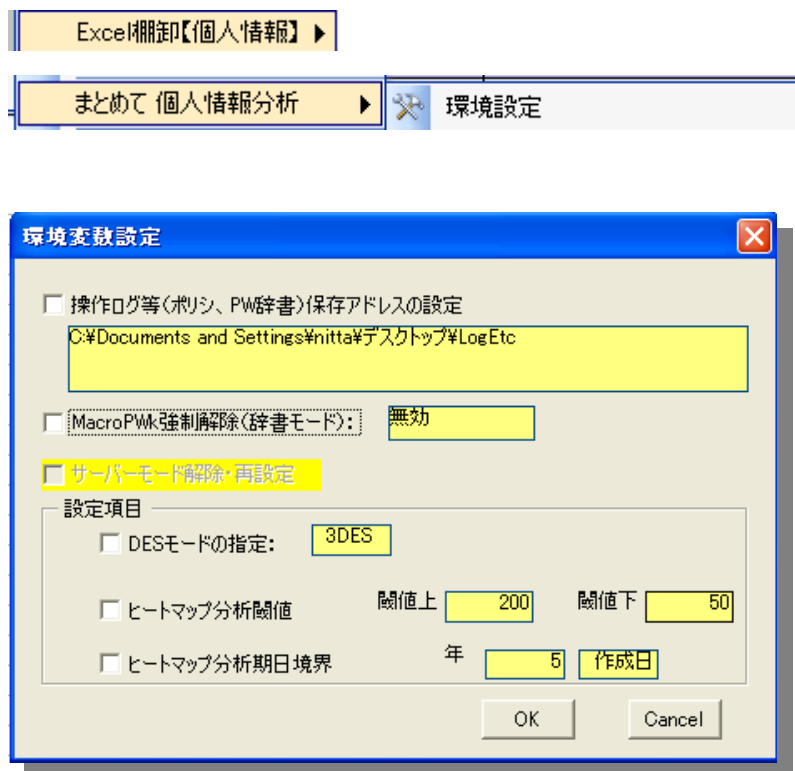


3.環境設定とパスワード制御

3.1 環境設定

ログの保存先等は、インストール時点で指定してありますが、本環境設定により変更することも可能です。

[アドイン]-[Excel 棚卸]-[まとめて棚卸分析]-[環境設定]



	設定項目	説明
1	操作ログ保存パスの設定	操作ログを保存するパスを指定します。本パス下にパスワード辞書等も作成されます
2	MacroPW 強制解除(辞書モード)の有効・無効化	MacroPW 強制解除において、登録済みの辞書にての解除も可能であるが、辞書のサイズが大きい場合、解除に相応の時間がかかる。辞書モードなしでの強制解除が早く解除できる場合がある。このため、デフォルトでは「無効」に設定されている。
3	ServerMode の設定・解除	本バージョンでは ServerMode は未サポートである
4	DES モードの指定	データの DES 暗号化モードを指定する 3DES は3つの暗号化キーを使用するため、1DES 方式より強力な暗号化が可能となる。デフォルトでは3DES に設定。
5	ヒートマップ分析閾値	分析した個人情報スコア値においてリスク度を大中小に分類

		するための値を定義する。未設定の場合、ヒートマップ分析時に指定する必要がある。デフォルトでは未設定。
6	ヒートマップ分析期日境界	個人情報ファイルの廃棄・削除が求められる。一定の期間が経過しているか否かを判定する。当該期日として作成日とするか更新日とするかを指定できる。デフォルトでは未設定。

3.2 分析テーブルの構成

分析テーブルは、本ツールの基本データを管理するもので、以下の5つの情報ブロックから構成されています。

	情報ブロック	配色	説明	非表示
1	基本情報	灰	選択、管理番号、ファイル名に相当する情報で、本情報フィールドは常に表示される。 選択においては、一括選択、条件選択が可能	不可
2	パスワード管理情報	淡紫	Read, Write、Book, Sheet および Macro 保護設定の有無状態、及びパスワードの値の表示が可能です	可※
3	元のブックの情報	灰	分析対象となる元のブックの情報でパス情報や作成・更新日が記される	可※
4	個人情報分析結果	黄	個人情報のスコア値を表示	可※
5	ヒートマップ分析	緑	ヒートマップ分析の結果を表示	不可

※：表示操作コマンド[Password 情報表示制御], [ブック属性情報表示制御], [個人情報表示制御]を使用

《基本情報》

棚卸【関数・マクロ】Version = 1.010		
選択	ID	FileName

《パスワード管理情報》

D	F	H	J	L	M	O
※(灰): 保護on(未解決), ※(白): 解除済, null: 保護off						
パスワード解除状態						Address
Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro	

パスワードの値を非表示の場合

※(灰): 保護on(未解決), ※(白): 解除済, null: 保護off

パスワード解除状態										
Read	rPW	Write	wPW	Book	bPW	Sheet	sPW	sList	Macro	mPW

パスワードの値を表示の場合

《元のブックの情報》

元のBook情報		元のBookプロパティ情報		
Address	r保護	作成者	作成日	更新日
C:\Documents and Settings\hitta\Desktop\個人データサンプル\fixedData.xls	OFF		2012/2/14 14:39	2012/2/25 11:37

[ブック属性情報表示制御]コマンドで非表示に設定できる

《個人情報要素》

個人情報の分析結果 [薄緑]: AND検索 [水]: OR検索 [灰]: 無効									
分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX	←集計	条件一致

[個人情報表示制御]コマンドで非表示に設定できる

《ヒートマップ分析》

HeatMap分析	
分類	選択

3.3 選択の操作

アドインが提供するコマンドを実行する場合、予め実行するブックを選択「選択」欄を「●」の状態に設定する必要があります。選択方法には次の方法が提供されています

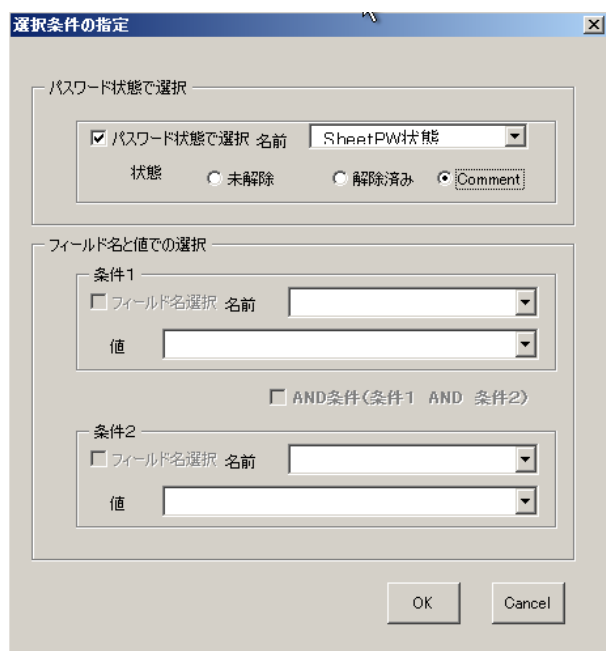
- (1) 直接選択欄を選択する（単一、または複数）
- (2) 選択したいブックのセルを指定
- (3) 「選択」セルを使用

共通部の「選択」セルを使用して、一括選択や条件選択が可能になります



「全選択」の場合です

「全解除」を選択すると、全てリセットされます

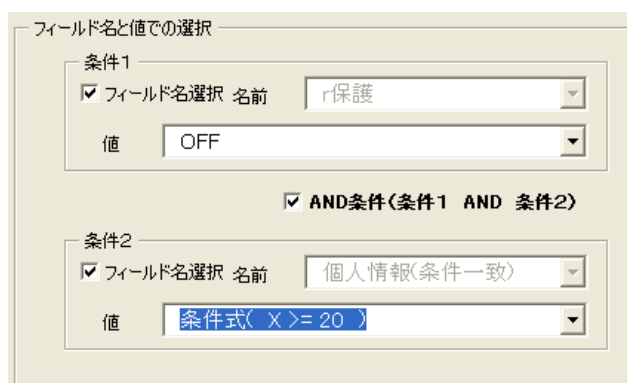


「条件選択」では、対象セルの属性条件を指定して選択することができます

2種類の条件指定ができます

- (1) パスワード状態の指定：

パスワード保護が解除済みか否か、あるいはポリシー分析の結果の違反コメントの設定されているブックを選択します



- (2) フィールド名と値：異なるフィールドの条件を最大二つまで指定できます。

例えば、r 保護=OFF でかつ個人情報（条件一致）数=20以上の条件指定が可能です

3.4 分析対象ブックのリスト作成とパスワードの解除

3.4.1 分析対象ブックのリスト作成

ブックの個人情報要素分析を行うにあたって、最初に分析を行う Excel ブックのリストを作成する必要があります。

(1). 作成手順

- ① 本ツールで扱うブックの一覧表を作成します。このため、事前に“棚卸(PI)”の文字列を含む、空のブックを作成しておきます。

注意: Excel97～2003互換の拡張子である “.xls”で保存して下さい。
Excel2010では作成したブックは「互換モード」で実行されます。

棚卸(PI)2012_0222-1 [互換モード] - Microsoft Excel

② アドインの起動

- ① で作成したブックを起動します。この時点で棚卸【個人情報】アドインが有効となります。

注意: 棚卸(PI)の文字列を含まない Excel ブックに対しては、アドインは働きません。

③ 分析対象の検索条件の定義

- ② を起動すると、検索条件定義のフィールドが作成される

検索フォルダの指定		
Task ID	検索フォルダパス	File数
1		

Copy先フォルダの指定	

ファイル検索条件(正規化表現)	
	Test

検索期日の指定(最終更新日)	
以前	以降

- 分析対象が保存されているフォルダを指定(必須): サブフォルダも検索の対象
- 元のブックをコピーを保存する作業用のフォルダ指定(必須)
- ファイル名の検索条件の定義(任意): 正規表現にて記述※
- 検索期日の定義(任意)

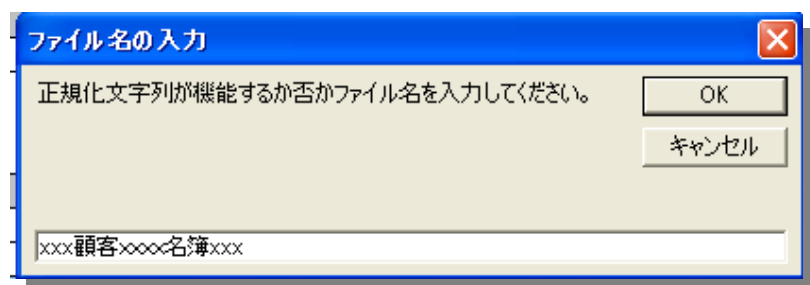
注意: 検索フォルダパス下に Copy 先フォルダの指定をしないで下さい。

※ 正規表現の使用例の解説

^(顧客|ユーザ)?.*(リスト|名簿|一覧|分析).*\$

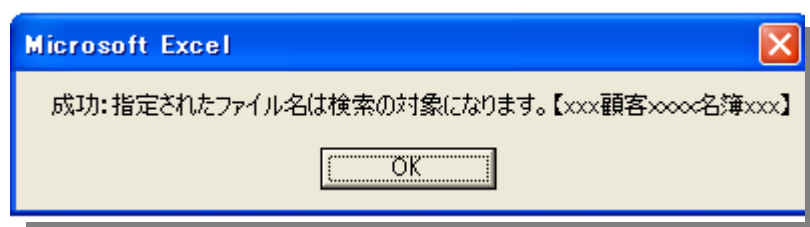
ファイル名の前方に「顧客」または「ユーザ」を含むことを許し、後方に「リスト」か「名簿」か「一覧」かまたは「分析」を含む”

	説明	備考
^	文字列の先頭(チルダー)	必須
\$	文字列の末尾	非数
¥n	改行	
.	改行を除く任意の 1 文字	「.*」で任意の文字列の繰り返し
*	直前のパターンの 0 回以上の繰り返し	
+	直前のパターンの 1 回以上の繰り返し	
?	直前のパターンが 0 回または 1 回現れる	(顧客 ユーザ)があってもなくてもよい
¥d	任意の数値	
¥D	任意の数値以外の文字	
¥s	任意のスペース文字	
¥S	任意のスペース以外の文字	
()	パターンのグループ化	(顧客 ユーザ): 顧客またはユーザを含む文字列
	パターンの論理和	
[]	キャラクタクラス	



テスト

の押下により検索したいファイル名に正しく作用するか否かを検証できる。

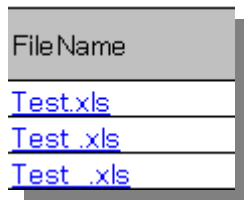


正しく作用すと判定された場合

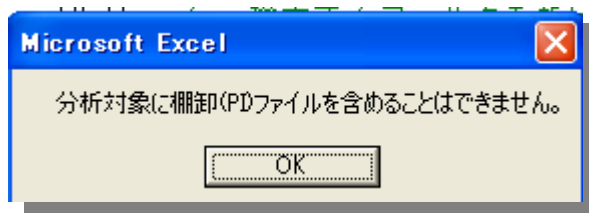
③ 分析対象の取り込み

以下の条件で、分析するブックが保存されているフォルダを指定します

- リスト作成時に指定するフォルダはサブフォルダを含みます
- 同一名は使用できません。従って、同一のファイル名を検出した場合は、suffixの”_”をファイル名の末尾に追加して区別します。



- ファイル名に“棚卸(PI)”の文字列を含むファイルは取り込めません



《作成された分析対象のリスト》

分析対象の2つのブックは少なくとも Read パスワードが設定されています。※(灰)は未解決(辞書に登録されていない)のパスワードを示しています。解決方法については、3.4.2 項を参照ください。

- 分析対象の追加:リストへのブックの追加はできません。その場合は、原則、新しい棚卸(PI)xxx.xls ブックを作成して対応してください。

3.4.2 Read パスワードの解除

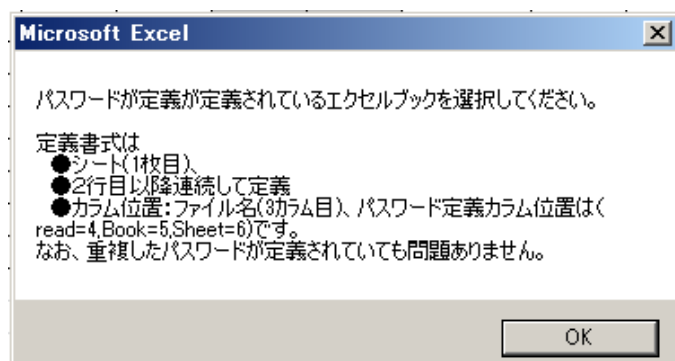
以降の個人情報要素分析を開始するためには、最低限、当該ブックをオープンできる必要があります。

ID=1,2 のブックは、Read 保護が設定されています。この Read 保護を解除する必要があります。この解除の方法は3通りあります。

- 方法1：事前に当該ブックの Read 保護を解除しておく
- 方法2：事前に Read 保護のパスワードを調べておき、本ツール機能を使用して辞書に登録する
- 方法3：調査しても不明な場合など、本ツール機能を使用して強制解除を行う：この方法は、一見、簡便に思えますが、総当たりのパスワードを評価しますので、設定されているパスワードの強度（パスワードの長さと使用している文字セットの大きさ）に応じて多くの時間を要します。従って、方法2を使用されることを推奨します。

（1）方法2：辞書登録

①[Excel 内部統制【個人情報】]-[まとめてパスワード強制解除]-[ユーザ PW 辞書の取り込み]



	A	B	C	D	E	F
1			FileName	rPW	bPW	sPW
2			File1	Yuzu		
3			File2	Yuzu2		

注意；ファイル名は正確である必要はありません

②パスワードが解除されたか否かの確認方法

- ・確認ブックを選択
- ・[Excel 内部統制【個人情報】]-[まとめてパスワード強制解除]-[PW の確認]の実行

選択	ID	FileName	パスワード解除状態					
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro
	1	MixedData 1.xls	※		※	※	1,2*2	
	2	MixedData 2.xls	※		※	※	1,2,3*3	

本例では、ID=1 のブックが Read 保護が解除済み（白※）になっています。ブックとシート保護が設定されて

います。

注意：sList 欄の、1, 2, 3*3 の意味は、全 3 シート（*に続く数字）の内 1 ～ 3 枚目のシートにシート保護が設定されていることを示しています。

この時、パスワード値の表示モードに設定していると、ヒットしたパスワードが表示されます。

選択	ID	File Name			
			Read	rPW	Write
<input type="radio"/>	1	MixedData 1.xls	※	pw	
<input checked="" type="radio"/>	2	MixedData 2.xls	※	pw	

(2) 方法3：強制解除

① 解除ブックの選択

②[Excel 内部統制【個人情報】]-[まとめてパスワード強制解除]-[Read/Write 保護の強制解除]

③パスワードの強制解除を行う場合は、管理者のパスワードの入力を求められます。初回に登録して下さい。

Read/Write保護の強制解除

解析条件

☒ ユーザ辞書 C:\Users\Administrator\Desktop\LogEtc\Pass 参照

☒ abc (abcdefghijklmnopqrstuvwxyz)

☐ ABC(ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ)

☒ 数字(0123456789)

☐ 特殊記号(半角) & \$ % - ! _

評価パスワード長 1 ~ 4 開始文字列

分割実行

☒ 選択 から

ステータス

一括: 評価パスワード:

開始 終了

□ユーザ辞書：インストーラで指定したログ
保存パス下に作成されています

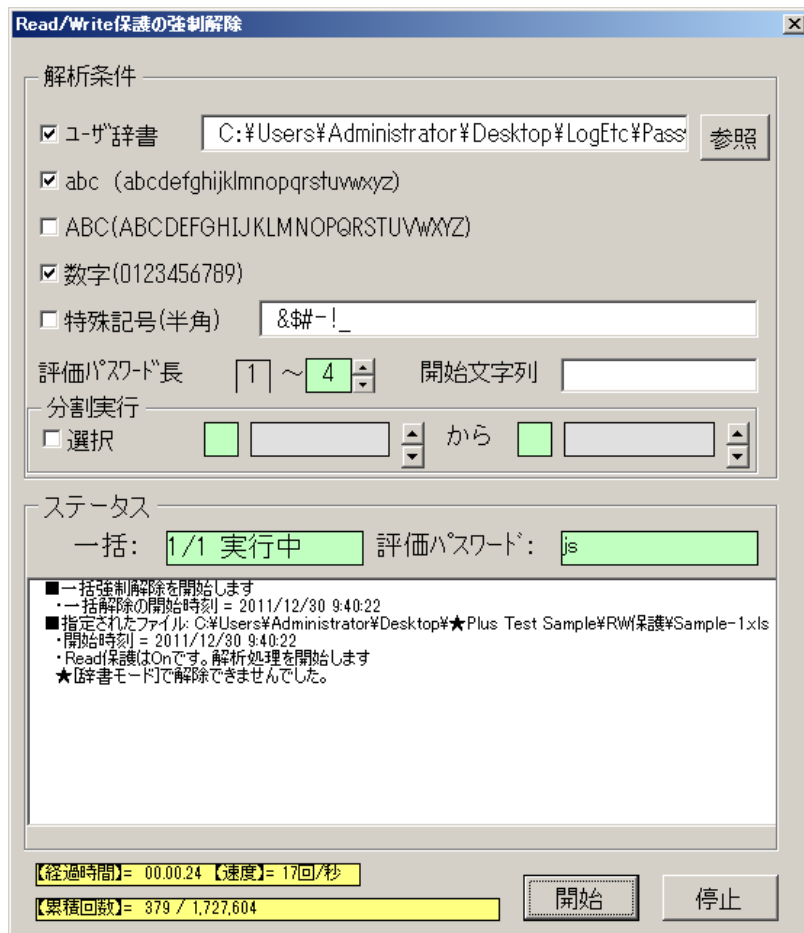
□文字セットの選択：本例では小文字の英数字で評価しています

□評価パスワード長：指定した文字セットでヒットしない場合にエンドレスの評価を防止するものです。

注意：この例でも最大5時間を要しますので、パスワードが5文字以上や4文字でも大小文字・特殊文字を持つ場合は方法2が実用的です

☐ 本、強制解除では、Write 保護も併せて解除されます。

注意：性能に関する警告



□評価パスワード：現在、文字列”js”を評価中で”zzzz”までトライします

□進行状況：
最初にユーザ辞書にて解除できない場合に、総当たりの強制解除を行います

□経過時間

□性能：本pcでは17回／秒ですから、より高性能マシンが必要です※

※：性能 OSの版にも依存しますが軽いOSで3.2GHzのCPUでは、300回／秒程度のパフォーマンスが得られます。Windows Vista等の重いOSではこのパフォーマンスは得られません。

3.4.3 シート・ブック・マクロのパスワードの解除

Excel では Read/Write 保護以外に、Book 保護、シート保護、VBA 保護があります。これらの保護解除が必要なケースは以下の場合です。

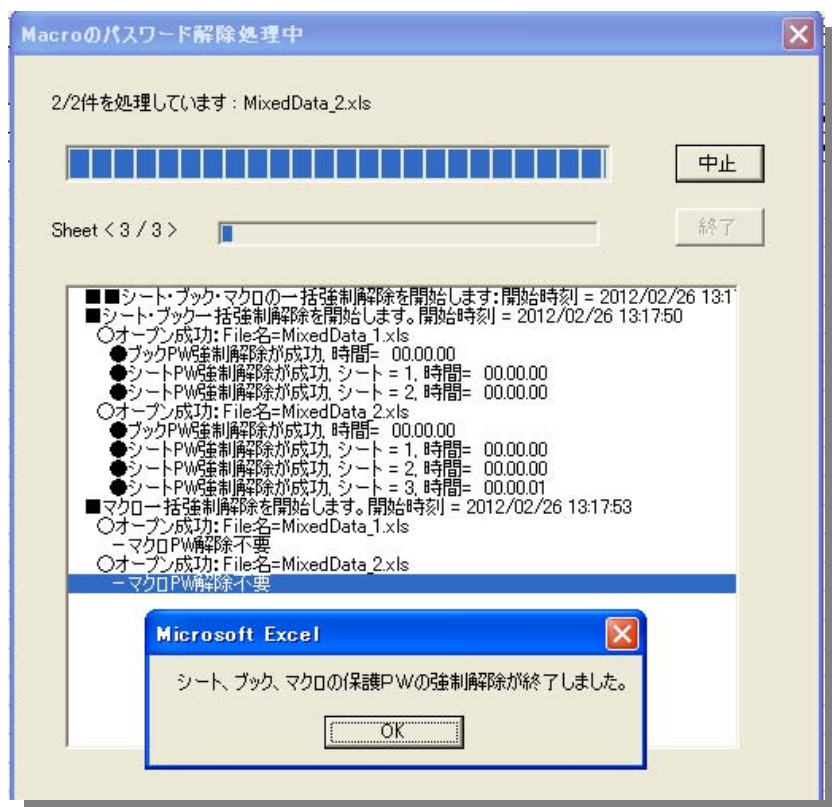
場合	パスワード解除の要否
1 個人情報分析	不 シート保護が設定されている状態でも分析は可能です
2 暗号・復号化処理	要 セルへの書き込みを行いますので、シート保護の解除が必要です

(1) 強制解除手順

① 解除ブックの選択

② [Excel 内部統制【個人情報】]-[まとめてパスワード強制解除]-[ブック・シート・VBA 保護の強制解除]

実行



- ・ 選択したブックのブック、シート、VBA 保護が解除されます
- ・ **注意 1** : 特殊保護やブックの共有設定が有効になっている場合には、解除に失敗します。
- ・ **注意 2** : まれにですが、タイミングによって VBA の強制解除フェーズにおいて、パスワード入力画面が裏に表示されて入力待ちのまま停止する場合があります。この場合には、タスクマネージャを呼び出すと、入力待ちの画面が表示されますので、キャンセルして下さい。

≪選択されたブックのパスワードがクリアされた状態です≫

選択	ID	FileName	パスワード解除状態					
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro
	1	MixedData 1.xls	※		※	※	1,2*2	
	2	MixedData 2.xls	※		※	※	1,2,3*3	



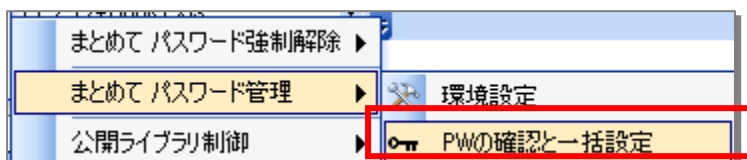
Excel 内部統制 Super棚卸【個人情報】取扱説明書

選択	ID	FileName	パスワード解除状態						Address
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro	
<input checked="" type="radio"/>	1	MixedData 1.xls	※						ES[Decompile and DeMangle]MixedData_128228_132248MixedData_1.xls
<input checked="" type="radio"/>	2	MixedData 2.xls	※						ES[Decompile and DeMangle]MixedData_128228_132248MixedData_2.xls

3.4.4 パスワードの確認と一括設定

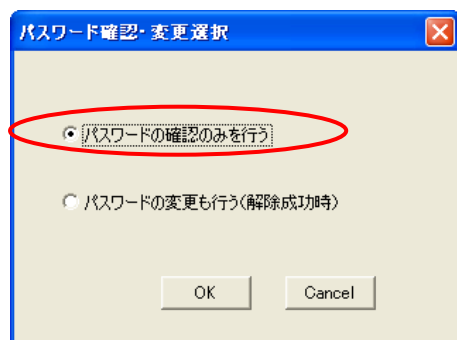
本機能は、選択されたブックに関して、パスワードが解決（パスワードが設定されているが、正しいパスワード値が登録されている）している状態において一括して変更することができます。

①コマンド起動



① スワードの確認

本操作は、パスワードが解決しているか否かを確認するものです。



確認内容は、

- ・PW 設定の有無
- ・登録 PW の正否

確認結果は以下の通りです。

※	有効なPW値	※	未定義PW	※	誤PW	#	一時解除PW	空	PW無し
---	--------	---	-------	---	-----	---	--------	---	------

	状態値	識別色	説明（開発 Library フォルダ下のブックに対して）
	なし	白	PW が未設定
	※	灰	PW が設定されているが、値が未登録
	※	白	PW が設定されており、正しい値が登録済み
	※	紫	PW が設定されており、誤った値が登録されている

③パスワードの変更

- ・②の画面にて、「パスワードの変更」を選択します
- ・PW を解除できない場合は、変更はできません

④パスワードの一括変更の設定

実行する保護PWを指定してください

2 個が選択されていますので、一括して変更されます。

注意:一括変更を行わない場合は、「Cancel」を実行して、個別に選択してから起動してください。
表示されているパスワード情報は選択された先頭のBookのもので、
ただしパスワード解除ができなかったものには適用されません。

☐ 読み取り保護PWの更新を実行。「null」を指定すると解除になります。

☒ 書き込み保護PWの更新を実行。「null」を指定すると解除になります。

☒ Book保護PW(シート)の更新を実行。「null」を指定すると解除になります。

☒ Sheet保護PWの更新を実行。「null」を指定すると解除になります。

☒ Macro保護PWの更新を実行。「null」を指定すると解除になります。

保護の対象とする範囲を指定してください。指定が無い場合は全シートとします。

シートリスト
☒ 新規指定 ☐ 既存選択

OK Cancel

- ・一括設定: 選択されたブックに対して
- ・PW の設定指定: チェックをオンに設定
- ・Write 保護、Book 保護、Sheet 保護、マクロ保護を設定

- ・ プロテクションの個別指定: 必要に応じて
- 以下のシート保護の赤線部の設定
注意: この機能は Excel2000 では利用できません

- ・変更の確認メッセージ

⑤一括設定されたパスワード結果

選択	ID	File Name	パスワード 解除状態						Address
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro	
●	1	MixedData 1.xls	※						C:\Documents and Settings\Administrator\Desktop\Excel\MixedData 1.xls
●	2	MixedData 2.xls	※						C:\Documents and Settings\Administrator\Desktop\Excel\MixedData 2.xls



選択	ID	File Name	パスワード 解除状態									
			Read	rPW	Write	wPW	Book	bPW	Sheet	sPW	sList	Macro
●	1	MixedData 1.xls	※	pw	※	wpw	※	bpw	※	spw	1,2*2	※
●	2	MixedData 2.xls	※	pw	※	wpw	※	bpw	※	spw	1,2,3*3	※

注: 本パスワードの設定は、コピーされた作業エリアにあるブックに対して行われており、元のブックへの設定は有効ではありません。有効にするためには、「【元】の Book への PW 保護設定」コマンドを使用してください。

3.4.5 リストからのブックの削除

本機能は、作成した分析リストから、不要になったブックを削除します。ブックの削除は【元】ブックの削除を行うものではありません。

4 個人情報分析

4.1 分析可能な個人情報

分析可能な個人情報データ：以下の表にある二つのタイプを分析することができます。個人情報を構成する要素（住所や電話番号など）がまとまった単位で行・列方向に規則的に配置されている場合です。

	データの配置形態	説明
1	行レコード	1 個人データレコードが行方向に編集されている (Excel97-2003 では最大 65536 レコード/シート) 多くのデータを収容する場合の形式です。 「分析結果モード」= 1 で表示されます。
2	列レコード	1 個人データレコードが行方向に編集されている (Excel97-2003 では最大 65536 レコード/シート) 比較項目で案を絞り込む場合の形式です 「分析結果モード」= 2 で表示されます。

《行レコード》

A	B	C	D	E
住所	名字	メールアドレス	電話番号	カード情報
岩手県盛岡市みたけ	佐藤	sakuzi_ideumi@abc.co.jp	019-944-7467	0123-4567-8901-2345
岩手県岩手郡雫石町仁佐瀬	鈴木	shou_aoumi@xyz.ne.jp	01-8573-2435	0123-4567-8901-2346

《列レコード》

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	住所	岩手県岩手	北海道札幌	北海道札幌	北海道札幌	岩手県岩手	北海道札幌	北海道札幌	北海道札幌	北海道札幌	岩手県盛岡
2	名字	鈴木	高橋	田中	渡辺	伊藤	山本	中村	小林	斎藤	加藤
3	メールアドレス	shou_aoumi@shuukiti.ku	sigemi.kou	kimiyo_tika	kiyomori.se	kouzi.sigak	keisige.tak	gi.sodezak	kisio.daimi	kenti.sand	
4	電話	01-8573-2011-740-3	011-396-3	011-964-6	01-4337-6	011-655-8	011-328-4	011-852-7	011-135-7	019-794-4	
5	カード	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567	0123-4567
6	記事	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

注：列レコードが更に行方向には配置（混合）されている場合は、最初のブロックのみを評価します

一方、本ツールでは分析ができない個人情報は以下のように、行列方向に一定の規則がなく編集されている場合です。

《分析ができない形態》

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		岩手県盛岡市みたけ					
3		岩手県岩手郡雫石町仁佐瀬					
4				佐藤			
5				鈴木			
6		sakuzi_ideumi@abc.co.jp					
7		shou_aoumi@xyz.ne.jp					
8						011-964-6195	
9						01-4337-6956	

4.2 個人情報の分析

4.2.1 分析条件に関して

分析を行うブックを選択し、選択された分析条件に基づき、当該個人情報の要素数を計数します。
その場合、

- シートの保護は設定状態でも問題ありません：Read 保護は解決済みであること
- データの並びとして行方向と列方向の二通りの分析を行います。計数が大きい方を採用します
- 分析範囲（行・列数）は設定可能ですが、範囲を大きくすると分析時間は面積に比例します。従って、一定以上の個人データを含むか否かの分析を行うことをお勧めします。

その他の分析条件は以下の表に示します

	項目	説明
1	名字	名字の辞書は最大6500件で、評価する辞書の範囲を上位からの指定で利用できます。漢字およびカナを選択できます。なお、辞書のカスタマイズはできません。
2	住所	ログ等の保存フォルダ下の「個人情報検索辞書.xls」の「住所辞書」として、全国、市町村までのアドレスが用意されています。ただし、市町村合併等に基づく修正が必要となる場合があります。また、検索の優先度は設定できます。デフォルトでは、人口の多い都道府県の順となっています。 また「拡張住所辞書」の併用も可能です
3	電話番号	国内の電話番号は特殊な番号形体を除くものが対象です。
4	メールアドレス	xxx@xxxx の形式をメールアドレスとして判定
5	クレジットカード	・16桁の数字の列をクレジットカード番号と判定。区切り文字（ハイフン/スペース/無し）対応 ・銀行の口座番号：銀行（3+7桁）、郵貯銀行（5+7／5+1+6）桁対応 ただし、クレジットカード番号検索を優先
6	郵便番号	国内のZipコードに対応しています
7	予備	機微情報（センシティブ情報）等の辞書データを定義できます。 ログ等の保存フォルダ下の「個人情報検索辞書.xls」の「AUX 辞書」を編集してください。

4.2.2 個人情報分析操作

- ① ブックの選択
- ② コマンドの実行：〈まとめて個人情報分析〉・〈個人情報分析〉

③ 検索条件の設定（設定値は保存され、二回目以降は保存値が表示されます）

個人情報検索条件の設定

■各シートのチェックする範囲を指定する(処理時間は面積に比例) 例20×20
 行数の指定 × 列数の指定

■名字辞書条件の設定

名字検索辞書の選択
☒ 一般名字辞書のみを使用する

選択
☒ 漢字 ☒ カナ

一般名字の指定
☒ 上位1000の名字を使用
☐ 上位名字数を指定する(最大6500)

■アドレス辞書条件の設定

アドレスの検索辞書の選択
☒ 一般都市名(2000)辞書のみ
☐ 拡張辞書のみ
☐ 併用する(但し、拡張辞書優先)

■名字に加えて以下の個人情報を確認する(少なくとも一つは選択)

検索条件
☒ OR検索
 OR検索一致

検索オプション
☒ 住所を確認する
☒ 電話番号を確認する
☒ メールアドレスを確認する
☒ カード番号を確認する
☒ 郵便番号を確認する
☐ AUX情報の確認

OK Cancel

● 分析範囲を設定

最大 10000 行×256 行です

● 名字、住所辞書の選択

● 名字の漢字、カナの選択（併用は可能、最初に漢字で評価します）

● 名字辞書のサイズを設定

● 検索オプションにて、個人情報項目を選択

● 検索条件の指定

- ・ OR 検索：OR 検索の一致数の項目データを検出するとき、「条件一致」として判定

注意：全項目を指定すると AND 検索と同じ結果となる

- ・ And 検索（OR 検索が未選択）：検索オプションの項目すべてにヒットしたものを「条件一致」として判定

≪OR 検索：スコアの背景色が水色、非選択項目の背景色は灰色≫

棚卸【個人情報】Version = 1.010													
選択	ID	FileName	個人情報の分析結果 [薄緑]:AND検索、[水]:OR検索、[灰]:無効										
			分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX	合計	条件一致	検索論理
	2	MixedData 1.xls	2,2*2	52	52	0	52	52	52		260	52	OR
	3	MixedData 2.xls	2,2,2*3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR

説明：「分析結果モード」= 2, 2, 2*3 の表記について、

- ・最後の “*3” は当該ブックのシート数を表します
- ・最初の “2, 2, 2” はシートの順番に、分析結果が「列レコード」検索モード=2 であったことを表します

一方、行レコードの場合は 検索モード=1 で表記されます。また何れでもない場合は 検索モード=0 となります。

例 “1, 2, 0*3” の意味は、全シートが三枚あり、最初のシートは行レコード、二番目は列レコード、最後のシートには個人データがなかったことを表しています。

注：本例では分析の結果、郵便番号のデータは一件もありません

●AND 検索（OR 検索を指定しない）

個人情報検索条件の設定

■各シートのチェックする範囲を指定する(処理時間は面積に比例) 例:20×20

行数の指定50 × 列数の指定50

■名字辞書条件の設定

名字検索辞書の選択

☒ 一般名字辞書のみを使用する

選択

☒ 漢字 ☒ カナ

一般名字の指定

☒ 上位1000の名字を使用

☐ 上位名字数を指定する(最大6500)

■アドレス辞書条件の設定

アドレスの検索辞書の選択

☒ 一般都市名(2000)辞書のみ

☐ 拡張辞書のみ

☐ 併用する(但し、拡張辞書優先)

■名字に加えて以下の個人情報を確認する(少なくとも一つは選択)

検索条件

☐ OR検索

OR検索一致

検索オプション

☒ 住所を確認する

☒ 電話番号を確認する

☒ メールアドレスを確認する

☒ カード番号を確認する

☒ 郵便番号を確認する

☐ AUX情報の確認

OK

Cancel

≪AND 検索：スコアの背景色が薄緑、非選択項目の背景色は灰色≫

棚卸【個人情報】Version = 1.010

選択	ID	FileName	個人情報の分析結果 [薄緑]:AND検索、[水]:OR検索、[灰]:無効								合計	条件一致	検索論理
			分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX			
	2	MixedData 1.xls	2,2*2	52	52	0	52	52	52		260	0	AND
	3	MixedData 2.xls	2,2,2*3	78	78	0	78	78	78		390	0	AND

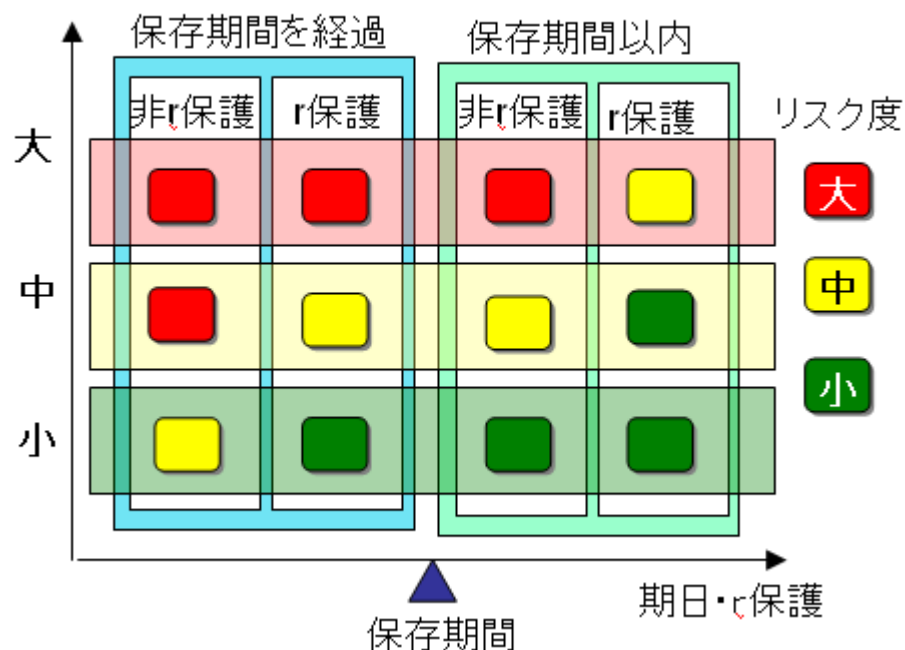
注：本サンプルの郵便番号のスコア値はゼロで、しかも AND 検索条件に設定されていますので一致件数はゼロになります。AND 検索の場合は、個人データがあるに関わらず、一致件数がゼロになる場合がありますのでヒートマップ分析では、「合計」値を使用してください。

4.3 ヒートマップ分析

分析した個人情報のスコア値、保存期間、リード保護の有無でリスクの高いファイルを仕分けします。

	項目	リスク度への影響
1	個人情報スコア値	個人情報のスコア値が高いほど、多くの個人情報を保有するファイルと判断する。 閾値の定義により、大中小に区分する
2	保存期間	個人情報は時間とともに、変化する可能性がある。個人情報保護法では情報の最新性の保持や保存期間は義務付けていませんが、古いファイルは持たないことが賢明といえます。指定した保存期間を経過したものをよりリスクの高いものと判定します。
3	リード保護	個人情報の漏洩リスクを回避するためには、読み取り保護を設定しておくことが求められます。原本のファイルの保護の有無によってリスク度を判定します。

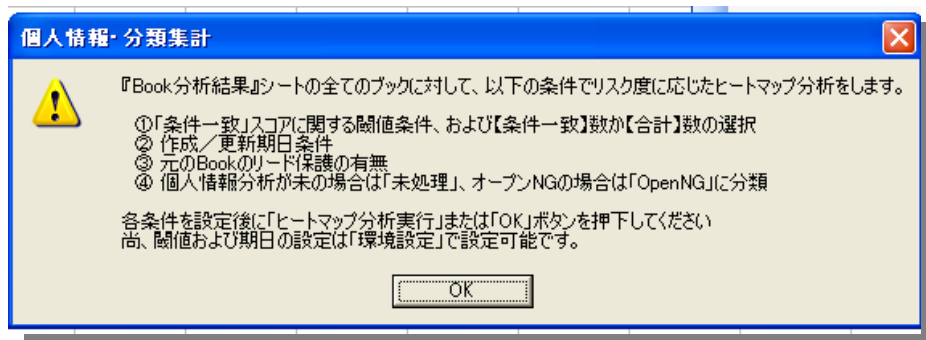
個人情報スコア値



4.3.1 ヒートマップ分析条件の定義

選択	ID	FileName	個人情報の分析結果 [薄緑]:AND検索、[水]:OR検索、[灰]:無効										検索論理
			分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX	合計	条件一致	
●	1	【解除】MixedData 3.xls	1,2,2,2*4	128	127	0	127	127	127		636	128	OR
●	2	MixedData 1.xls	2,2*2	52	52	0	52	52	52		260	52	OR
●	3	MixedData 2.xls	2,2,2*3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR
●	4	MixedData 3.xls	2,2,2*3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR

- ① コマンドの起動:<Excel 棚卸【個人情報】>・<まとめて個人情報分析>・<個人情報のヒートマップ分析>を起動
- ② 起動メッセージの確認



- ③ 分析条件の設定

《説明》

● 個人情報スコアの大中小の区分けのための閾値の設定

● 保存期間を判定するための期日の設定(絶対期日/年数)

注:環境設定で初期値を設定すると、起動時に当該設定値がロードされます

● スコア値の選択(「条件一致」数/「合計」値)

注:環境設定で初期値を設定すると、起動時に当該設定値がロードされます

4.3.2 ヒートマップ分析条件の実行

ヒートマップ分析の実行：「ヒートマップ分析実行」ボタンの押下により、設定条件に基づき分析を行います

個人情報のヒートマップ分析

個人情報スコア

OpenNG 0 未処理 0

閾値選択
 閾値上 <以上>
 100
 スコア閾値 <間>
 閾値下 60
 <未満>

一致数
 合計数

以前・後の期日指定
 2007/3/3 作成時 更新時
 期日の直接指定
 OK
 保存期間による期日指定
☒ 保存期間の指定
 5 年

ヒートマップ分析実行
 総件数 4
 OK Cancel

期日

以前
 非保護 0 r保護 0
 r非保護 0 r保護 0
 r非保護 0 r保護 0

以後
 r非保護 1 r保護 0
 r非保護 1 r保護 1
 r非保護 0 r保護 1

《説明》

●サンプルは何れも保存期間が5年を経過していませんので、《後》の区分に該当しています。

●リード保護無しが二件、リード保護済みが二件で、それぞれ個人情報スコア値に依存して先のように区分けされました。中の数字はファイル件数です。

●本分析条件例においては、リード保護無しで個人情報スコアが128のID=1のファイルが最もリスクの高いファイルであることを示しています。

《分析結果リスト》

選択	ID	FileName	個人情報の分析結果 [薄緑]: AND検索、[水]: OR検索、[灰]: 無効										HeatMap分析		
			分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX	合計	条件一致	検索論理	分類	選択
●	1	【解除】MixedData 3.xls	1,2,2* 4	128	127	0	127	127	127		636	128	OR	HUB	
●	2	MixedData 1.xls	2,2* 2	52	52	0	52	52	52		260	52	OR	LPA	
●	3	MixedData 2.xls	2,2,2* 3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR	LPA	
●	4	MixedData 3.xls	2,2,2* 3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR	MUA	

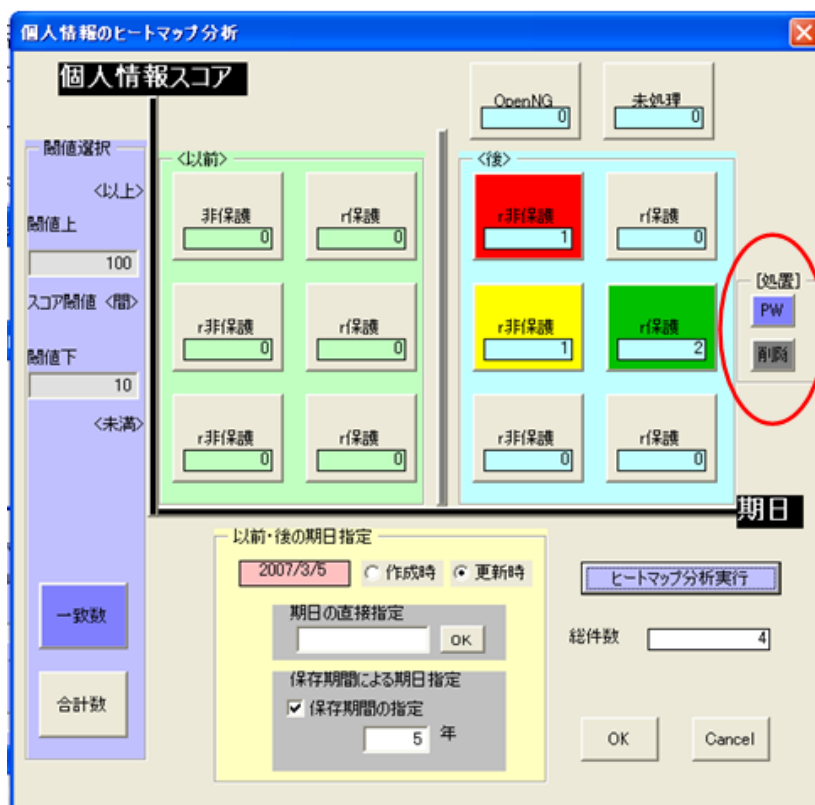
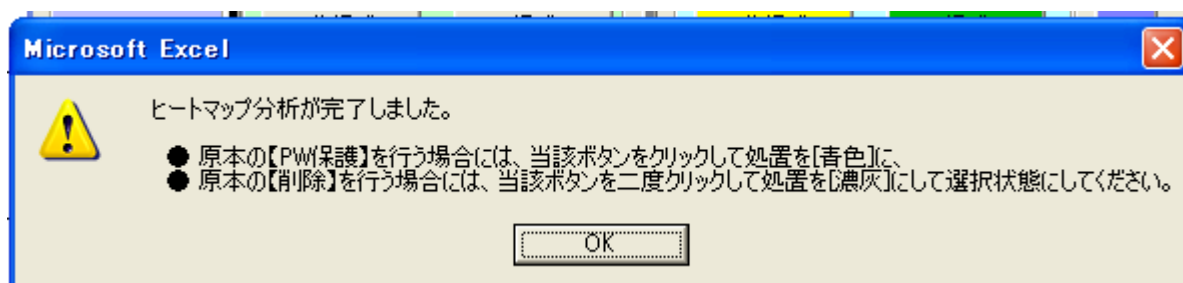
ヒートマップ分析結果が「分類」欄に反映されます

4.3.3 ヒートマップ分析結果に基づく「選択」

リスクの高い Excel ブックに対して、本ツールでは、以下の処置を実行することが可能です。
このために対象ブックを「選択」する必要があります

	分類	説明
1	元ブックの削除	保存期間が過ぎたファイル等を元のフォルダから、削除します。 注意: 作業用のフォルダには残っています。
2	元ブックへのリードパスワード保護の設定	保護が必要な元ブックに対して、現在分析中のブックのリードパスワード値を反映します。 注意: リードパスワードが未設定や未解決の状態、あるいは元ブックの削除後には実行できません。

《ヒートマップ分析の終了メッセージ》



《説明》

- ・Read パスワードを設定する場合: 当該ボタンを一回クリックして「青」表示に反転させる。
- ・削除: 当該ボタンを二回クリックして「灰」表示に反転させる。

個人情報ヒートマップ分析

個人情報スコア

閾値選択

<以上>

閾値上

100

スコア閾値 <間>

閾値下

10

<未満>

一致数

合計数

OpenNG 0

未処理 0

<以前>

非保護 0

r保護 0

r非保護 0

r保護 0

r非保護 0

r保護 0

<後>

r非保護 1

r保護 0

r非保護 1

r保護 2

r非保護 0

r保護 0

期日

以前・後の期日指定

2007/3/5

作成時

更新時

ヒートマップ分析実行

総件数 4

OK

Cancel

「説明」
反転した状態です

「個人情報 Book 分析結果シート」には指定した処置選択が反映されます」

選択	ID	FileName	分析結果モード	名字(人名)	住所	郵便番号	電話	メール	カード	AUX	合計	条件一致	検索論理	分類	選択
●	1	【解除】MixedData 3.xls	1,2,2* 4	128	127	0	127	127	127		636	128	OR	HUB	PW
	2	MixedData 1.xls	2,2* 2	52	52	0	52	52	52		260	52	OR	LPA	
	3	MixedData 2.xls	2,2,2* 3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR	LPA	
●	4	MixedData 3.xls	2,2,2* 3	78	78	0	78	78	78		390	78	OR	MUA	削除

この状態で、各コマンドの実行が可能になります。

4.3.4 元ブックへのリードパスワードの設定

①ブックの選択とリード保護の設定の確認

注: 本画面はパスワード情報を表示しています

選択	ID	FileName	パスワード解除状態	Address	検索論理	分類	選択
●	1	【解除】MixedData 3.xls	※	...	OR	HUB	PW
	2	MixedData 1.xls	※	...	OR	LPA	
	3	MixedData 2.xls	※	...	OR	LPA	
●	4	MixedData 3.xls	※	...	OR	MUA	削除

本例では、ID=1のブックに「パスワードの確認・一括設定」コマンドにて、リードパスワードを設定してあります。

②「リード保護の設定」コマンドの実行: <まとめて個人情報>・<【元】ブックへのリード PW 保護設定>

Microsoft Excel

本処理は選択【●】され、かつ処置として【PW】に設定された元のExcelBookに【リード】パスワード保護を設定します。

設定するパスワードは「個人情報 Book 分析結果」に設定された全てのパスワードです。
少なくとも、リード保護PWが未定義または未解決の場合は実行されません。
また、既に削除済の場合も実行されません。

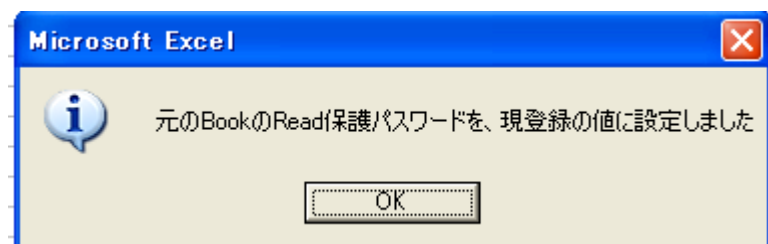
OK

キャンセル

「起動確認画面」

注: 処置 = 本処理では「削除」のブックは、無視されます

《完了メッセージ》



《元の Book 情報において、リード保護済み確認の画面》

注: 本画面はブック情報を表示しています

選択	ID	FileName	元のBook情報				元のBookプロパティ情報				J: AND検索	HeatMap分析	
			Address	リード保護	作成者	作成日	更新日	検索論理	分類	選択			
●	1	【解除】MixedData 3.xls	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\【解除】MixedData 3.xls	ON	nitta	2012/2/26 10:40	2012/2/26 10:42	OR	HUB	PW			
	2	MixedData 1.xls	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 1.xls	ON	nitta	2012/2/14 14:39	2012/2/26 13:12	OR	LPA				
	3	MixedData 2.xls	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 2.xls	ON	nitta	2012/2/26 9:29	2012/2/26 13:14	OR	LPA				
●	4	MixedData 3.xls	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 3.xls	OFF	nitta	2012/2/26 10:38	2012/2/26 10:38	OR	MUA	削除			

元Bookのアドレスをクリック

パスワード

「【解除】MixedData 3.xls」は保護されています。
パスワード(P): ****

OK キャンセル

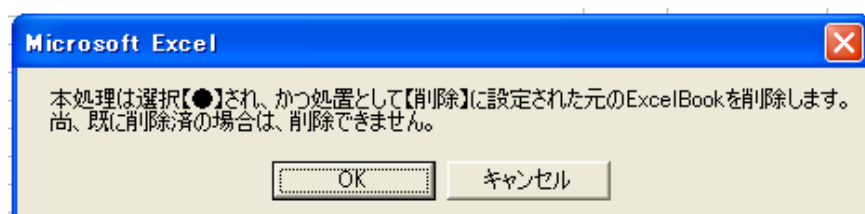
4.3.5 元ブックのブックの削除

①ブックの選択

注: 本画面はパスワード情報を表示しています

選択	ID	FileName	パスワード解除状態					Address	J: AND検索	HeatMap分析	
			Read	Write	Book	Sheet	sList			検索論理	分類
●	1	【解除】MixedData 3.xls	※					C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\【解除】MixedData 3.xls	OR	HUB	PW
	2	MixedData 1.xls	※		※	※	1,2*2	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 1.xls	OR	LPA	
	3	MixedData 2.xls	※		※	※	1,2,3*3	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 2.xls	OR	LPA	
●	4	MixedData 3.xls			※	※	1,2,3*3	C:\Documents and Settings\kita\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\MixedData 3.xls	OR	MUA	削除

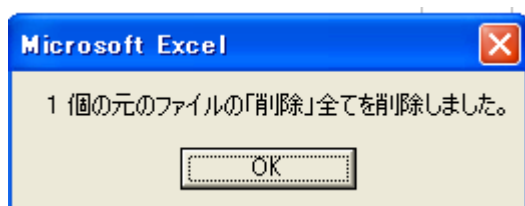
②「【元】の Book 削除」コマンドの実行: <まとめて個人情報>・<【元】の Book 削除>



《起動確認の画面》

注: 処置 = 本処理では「PW」のブックは、無視されます

《完了メッセージ》



≪削除後のリスト表示≫

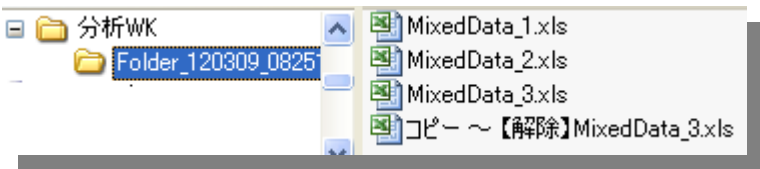
選択	ID	FileName	元のBook情報		元のBookプロパティ情報				HeatMap分析	
			Address	r保護	作成者	作成日	更新日	分類	処置	
●	1	【解除】MixedData 3.xls	C:\Documents and Settings\Nitta\Desktop\個人情報サンプル\Excel\解除MixedData 3.xls	OFF	nitta	2012/3/3 10:01	2012/3/5 16:22	HUB	PW	
●	2	MixedData 1.xls	C:\Documents and Settings\Nitta\Desktop\個人情報サンプル\Excel\MixedData 1.xls	ON	nitta	2012/2/14 14:39	2012/2/26 13:12	LPA		
●	3	MixedData 2.xls	C:\Documents and Settings\Nitta\Desktop\個人情報サンプル\Excel\MixedData 2.xls	ON	nitta	2012/2/26 9:29	2012/2/26 13:14	LPA		
●	4	MixedData 3.xls	元のファイルを削除	--	nitta	2012/3/5 15:54	2012/2/28 10:38	MUA	削除	

元のブックアドレス表示は変更されています

4.3.7 フリーズ(作業フォルダの削除)

本個人情報の分析処理では、分析対象である元のブックのコピーを作業用のフォルダに作成しています。分析処理は、このコピーしたブックに対して行っており、例え、元ブックの削除を行っても、作業用のフォルダには残っています。新たな保存場所として作業用のフォルダを使用しない限り、作業用のフォルダを削除する必要があります。

① フリーズ前の作業用のフォルダとサブフォルダ(フォルダ名はリスト作成時のタイムスタンプを付与)

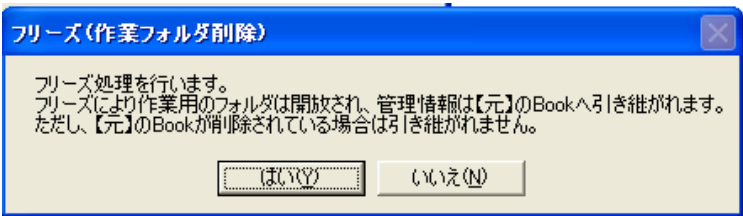


≪ 作業フォルダとコピーされたブック ≫
サブフォルダはリストを作成した時点で作成

選択	ID	File Name	パスワード 解除状態						Address
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro	
●	1	MixedData 1.xls	※		※	※	1,2*2		C:\Documents and Settings\Nitta\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\解除MixedData 1.xls
●	2	MixedData 2.xls	※		※	※	1,2,3*3		C:\Documents and Settings\Nitta\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\解除MixedData 2.xls
●	3	MixedData 3.xls			※	※	1,2,3*3		C:\Documents and Settings\Nitta\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\解除MixedData 3.xls
●	4	コピー ~ 【解除】MixedData 3.xls							C:\Documents and Settings\Nitta\デスクトップ\個人情報サンプル\Excel\解除MixedData 3.xls

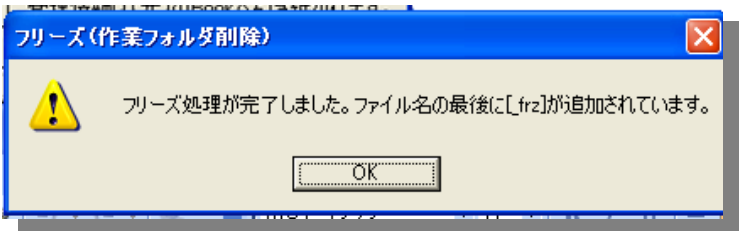
≪分析中のブックのリスト≫

② 「フリーズ(作業フォルダの削除)」コマンドの実行 : <まとめて個人情報>・<フリーズ(作業フォルダの削除)>選択

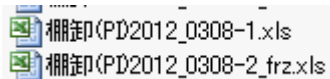


≪ 起動確認のメッセージ ≫

③ フリーズ後



≪ 終了メッセージ ≫
ファイル名は「棚卸(PI)xxxx.xls」が
「棚卸(PI)xxxx_frz.xls」に変わります。



《個人情報分析結果シートの表示》:

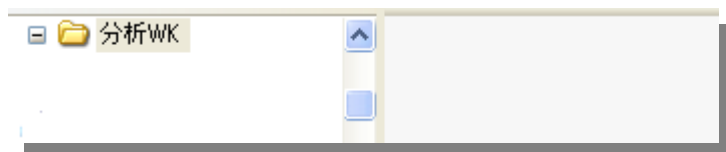
選択	ID	FileNmae(freezed)	パスワード解除状態						Address(freezed)
			Read	Write	Book	Sheet	sList	Macro	
	1	MixedData 1.xls	※		※	※	1,2*2		C:\Documents and Settings\Naka\デスクトップ\個人情報センブリット\Book01\MixedData_1.xls
	3	MixedData 2.xls	※			※	1,2,3*3	※	C:\Documents and Settings\Naka\デスクトップ\個人情報センブリット\Book02\MixedData_1.xls
	4	MixedData 3.xls				※	1,2,3*3	※	C:\Documents and Settings\Naka\デスクトップ\個人情報センブリット\Book03\MixedData_1.xls
	5	コピー ~【解除】MixedData 3.xls							C:\Documents and Settings\Naka\デスクトップ\個人情報センブリット\Book04\MixedData_1.xls

注意: 作業フォルダへのハイパーリンクは削除され、【元】のブックに変更されます。以降は、元ブックに対しての直接の操作に切り替わります。

《検索条件設定シート》

Copy 先フォルダの指定欄の表示とクリック時の警告

《削除された作業サブフォルダとブック》



5 暗号化処理

5.1 暗号化・複合化機能

個人データの内、特に秘匿すべきデータが存在する場合に、データの暗号化はデータ漏洩に対して強力な対策となります。

本暗号化は 3 DES（トリプル DES）方式に基づき、データの暗号化および複合化の手段を提供します。

- ①ブックの起動：「個人情報_Book 分析結果」に収録のブックをコマンドから、もしくは同じコンテキスト下※で対象ブックを直接開く
- ②暗号化、複合化対象のブロックを選択（複数可能）
- ③コマンド起動：選択ブロックのポップアップメニュー、もしくは<ツール> ・<Excel 棚卸【個人情報】> ・<まとめて暗号処理> ・<暗号制御>
- ④暗号・復号選択と DES キーを入力

注意：3 DES の場合、本来、3つの暗号キーが必要ですが、指定できるのは一つです。他の二つはシステム固定値です。

なお、暗号化データの再暗号化は抑止されます

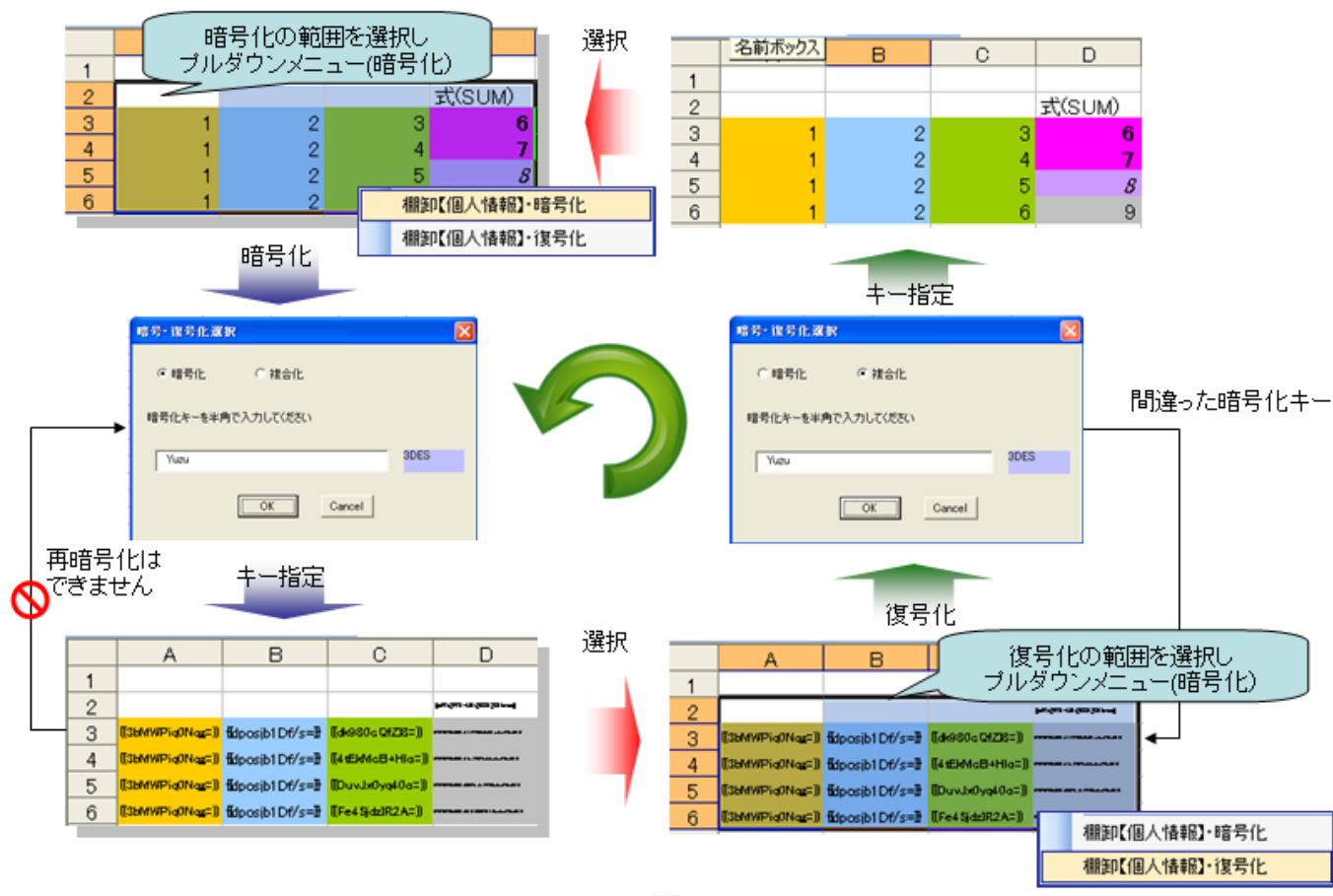
式が定義されている場合は、演算結果ではなく式そのものを暗号化しています

※：同じコンテキスト下とは

棚卸【PI】*.xls を起動した状態で、同ファイルメニューから暗号化したいブックを開くと、本アドインの暗号処理が有効となります。必ずしも「個人情報_Book 分析結果」シートに登録しておく必要はありません。

一方、スタートメニューやフォルダーから直接 Excel を起動した場合は、別の独立した Excel が起動されアドインは有効となりません

5.2 暗号化・復号化のサイクル



基本仕様

- ・ DES もしくは3DES(デフォルト)方式:環境設定コマンドで変更は可能
- ・ 指定暗号化キー数:一つ。3DES の場合は、システム固有のキーを使用
- ・ 暗号化されたセルのロック:暗号化されたデータを誤操作等で壊すと、複合化することはできません。このため、暗号化したセルはロックするとともに、シート保護を設定します。
- ・ 分析リスト配下でないブックのシート保護:暗号化時にシート保護が設定されていると、書き込みができません。このため“Yuzu”というパスワード以外が使用されている場合には、事前にシート保護を解除しておく必要があります。本暗号化処理では、終了すると一義的に、“Yuzu”というパスワードでシート保護を行っています。複合化の場合も同様です。
- ・ 分析リスト配下のブックの場合は、登録されているシート保護を適用します。したがって、当該パスワードは解決状態にあるか、シート保護が有効であることが、暗号・復号化処理の起動条件となります。
- ・ 書式設定等の保存:有効
- ・ 暗号化データの再暗号化:禁止(エラーとなります)
- ・ 復号化の失敗:誤暗号化キーの入力の場合、元の暗号化データに復帰